

WedsSport

YOKOHAMA

SHINKO

OGURA  
CLUTCH

MIE TOYOPET

NUTEC

Jms

OKANO  
ExpPress

DIESEL AID

FUJITSUBO  
EXHAUST SYSTEMS

BRIDE

宮田自動車商会



WellVets  
- Animal Welfare Group -

KDC  
DENTAL CLINIC

GLOBAL  
QUIRTZ CRYSTAL

本田鉄工株式会社

Quarant Inc  
タイヤメンテナンス

RACING PROJECT  
BANDOH

## 2 戦連続 P.P.獲得

『国本雄資選手自身初ポールポジション獲得！！2 戦連続 P.P. からスタート！』



シリーズ名：2022 AUTOBACS SUPER GT シリーズ

大会名：2022 AUTOBACS SUPER GT Round3 たかのこのホテル SUZUKA GT 300km RACE

レース距離：1周 5.807km×52周 (301.964km)

5月28日(土) 天候：晴れ/路面：ドライ

5月29日(日) 天候：晴れ/路面：ドライ

5月28日(土) 予選 Q1：阪口選手 6位 / Q2：国本選手 1位 /

公式予選：GT500 クラス 1位

素晴らしい晴れた鈴鹿サーキットで開催される第三戦。

午前中での公式練習では、2種類のタイヤを確認し、セットアップを進めて行った。しかし『ドライバーからはリヤグリップがない。タイヤがグリップしている感じが無い。』との無線が、その後フロントのレスポンスも改善して欲しいと要望が出た。事前鈴鹿テストのロングが確認できているタイヤを再度高温の条件の中6周のみ確認した。しかしドライバーの感触は余りよくないとのコメント。次のセットアップ案として

WedsSport

YOKOHAMA

SHINKO

OGURA CLUTCH

MIE TOYOPET

NUTECH

Jms

OKANO  
RedPower

DIESEL AID

FUJITSUBO  
EXHAUST SYSTEMS

BRIDE

宮田自動車商会



WellVets  
— Animal Welfare Group —

KDC  
DENTAL CLINIC

GLOBAL  
BURST SYSTEM

本田鉄工株式会社

GANTRY Inc  
タイヤ・エアロ

RACING PROJECT  
BANDOH

フロントジオメトリーを変更する時間に残り時間を費やしフリー走行を切り上げ、GT500 占有走行に望んだ。占有走行では予選に使用しないタイヤで 1'46.804 と 10 番手のタイムを出した。しかしその後赤旗中断となりセッションは終了した。正直この赤旗がなかったらもっと他車はタイムを出し、19 号車は更に下位に沈んでたと思う。ドライバーとエンジニアはデータを分析しながら予選セットを決めた。

午後の予選は、気温が 28 度、路面温度が 44 度と高めなコンディションの中、Q1 が始まる。

Q1 のアタッカーは阪口選手。開始直後に 39 号車がコースイン。引き続き、各車がコースインする中、19 号車は遅めの 7 分を切った頃にコースインする。残り 2 分を切ったあたりで、各車 1'44 秒台に入る中、アタックに入った 19 号車は、最終コーナーを立ち上がり、インバタギリギリまで攻めたタイムが 1'44.960 と暫定 4 番手に入る。その後、各車がタイムアップをするものの、6 番手にて Q1 突破となった。

Q1 の結果は、1'44.230 のコースレコードをだした 3 号車がトップ、以下 39-37-17-36-19-12-16-(以上 Q1 通過)-14-24-64-23-8-100 となりました。

Q2 は国本選手がアタック。Q1 とは違って、開始直後にコースインする車は無く、残り 9 分 20 秒で 39, 17 号車が入ると、各車作戦に基づき、バラバラにコースインしていく。遅めで出て行った 19 号車は、早めに出て行った車の 1'44.2 付近をターゲットタイムとして、残り 2 分を切ったあたりで一発勝負のアタックに入り、Q1 で 3 号車が出したコースレコードを上回る 1'44.112 を叩きだし、暫定トップに。

その後、19 号車を上回る車が出る事が無く、2 戦連続のポールポジションを奪取しました。

Q2 の結果は、2 戦連続で 19 号車、2 位は宮田選手がドライブする 37 号車が入り、以下 3-16-17-39-12-36 となりました。



WedsSport

YOKOHAMA

SHINKO

OGURA CLUTCH

MIE TOYOPET

RUTEK

Jms

OKAWO Express

DIESEL AID

FUJITSUBO EXHAUST SYSTEMS

BRIDE

宮田自動車商会



WellVets - Animal Welfare Group -

KBC DENTAL CLINIC

GLOBAL GUMS GUMS CHEVYVAL

本田鉄工株式会社

Quantum Fire

RACING PROJECT BANDOH

## 予選コメント

【坂東監督】



『想定以上のタイムでビックリしています。こんなタイム出るんですね。長年国本選手と仕事を一緒にやっていますが、速い国本選手をお見せする事が出来て本当に嬉しいです。国本選手は昨年 Q1 のみの担当でした。その指示をしたのも僕です。彼は彼の仕事を全うしてくれました。昨年とは違い予選順番を変えて挑んだ結果がポールポジション獲得と最高の結果をもたらしてくれました。チーム 6 度目のポールポジションは本当に嬉しかったです。もちろん厳しい Q1 で通過してくれた阪口選手にもメカニック、エンジニア、スタッフに感謝しています。チーム雰囲気は最高なので後は勝つだけです。』

【国本選手】



『ポールポジション獲得する事ができました。自分でも初めてのポールポジション獲得で嬉しいです。GR とヨコハマタイヤそしてエンジニア、チームスタッフ、そして Q1 突破してくれて、Q2 に向けてアジャストしてくれた阪口選手に感謝です。明日は一番からのスタートなので順位をキープして精一杯頑張ります。』

【阪口選手】



『ポール獲得できました。2 戦連続で嬉しいです。フリー走行は鈴鹿を得意としてない 19 号車は厳しい戦いかな？と思ったのですが予選に向けて大きく改善して Q1 も自分が担当したのですが素晴らしいタイムが出せて、横浜タイヤさん、TCD さん、スタッフには感謝しております。

Q2 は国本選手が素晴らしいアタックでとんでもないタイムでコースレコードまで更新して本当に嬉しかったです。前回富士はポールからスタートで悔しい結果だったので今回鈴鹿は苦手と思わせないような力強い走りで行きたいと思っています。』

WedsSport

YOKOHAMA

SHINKO

OGURA  
CLUTCH

MIE TOYOPET

RUTEQ

Jms

OKANO  
Express

DISELAID

FUJITSUBO  
EXHAUST SYSTEMS

BRIDE

宮田自動車商会



WellNets  
— Animal Welfare Group —

KBC  
DENTAL CLINIC

GLOBAL  
SECURITY & CONTROL

本田鉄工株式会社

JOYNET  
タイヤ・メンテナンス

RACING PROJECT  
BANDOH

## 決勝 5 位

雲一つ無い快晴の元、季節外れの暑さとなった鈴鹿サーキットで開催される第三戦。気温 30 度/路面温度 50 度と厳しいコンディションの中、タイヤに厳しくレースは予想がつかない展開になるだろう。19 号車はポールポジションからの優勝を目指し、爆走していく。

レース前には鈴鹿サーキット 60 周年 特別デモランが行われ、往年の GT500 車両が走りサーキットに華を添えた。スターティングドライバーは国本選手。ウォームアップ走行中の 300 クラス車両のクラッシュの影響で、スケジュールが 10 分遅れと 14 時 40 分にフォーメーションラップ、2 周後にレースがスタートとなった。

19 号車はトップでスタートを切り、逃げの姿勢に入るが、後ろからは S 字で 37 号車をパスした 3 号車が背後に付くと、130R でパスされ、さらに、シケインの飛び込みで 37 号車にパスされて 3 位まで落ちてしまった。さらに、2 周目のシケインの飛び込みで 17 号車にパスされ、4 位へ。さらに後ろから 16 号車から責め立てられるところで、3 周目に 12 号車が止まった関係で FCY が導入された。

19 号車は、前と後ろの車との差が 1 秒の等間隔で周回を重ねていくが、9 周目に 300 クラスの集団に追いつき、300 クラスをかわしつつ、前の 16 号車に迫っていくが、14 号車からも追撃を受けることになってしまう。だが、11 周目に 300 クラスの車がシケインでクラッシュ、さらに S 字で 38 号車が白煙を噴いて止まってしまい、SC が入ることとなった。

15 周目にレースが再開、大きな順位変動もなく、5 番手で再スタート。前の 17 号車とは 1 秒の間隔で着かず離れずの周回を重ねていく。

レースが 1/3 を迎える中、18 周目に 16 号車が、19 周目に 37 号車が、20 周目に 17 号車がピットに入り、21 周目に 3 号車が入り、19 号車が暫定トップに。他車が 1/3 でピットに入る中、19 号車はギリギリまで引っ張り 25 周目でピットに入る。

阪口選手にドライバーチェンジして、タイヤ交換、燃料給油をして、暫定 5 位で復帰。



WedsSport

YOKOHAMA

SHINKO

OGURA CLUTCH

MIE TOYOPET

NUTEC

Jms

OKAMO  
ExpPress

DIESEL AID

FUJITSUBO  
EXHAUST SYSTEMS

BRIDE

宮田自動車商会



WellVets  
— Animal Welfare Group —

KDC  
DENTAL CLINIC

GLOBAL  
RUBBER & CHEMICAL

本田鉄工株式会社

QUANTUM Fire  
タイヤ・メンテナンス

RACING PROJECT  
BANDOH

28 周目に暫定トップだった 39 号車がピットに入り、全車ピットが終了し、19 号車は 5 番手のまま。アウトラップの 39 号車の真後ろに着き、戦闘モードの所で 2 度目の FCY が入った。29 周目に FCY が解除されると、前の 39 号車の追撃に移る。だが、38 周目から後ろの 8 号車が迫ってきた。5 番手争いが始まるかと思われたが、39 周目にヘアピン手前の 300 クラスの車両の撤去処理のため、FCY が 3 度入り、その後、SC に変わった為、レースは中断。19 号車の順位は 5 番手。

残り 9 周目に SC が解除されてレースが再開。SC により、各車との差がリセットされ、19 号車は前の 39 号車を追いかけていくが叶わず、5 位にてチェッカーを受けることとなりました。

レースはオープニングラップで、37, 19 号車をパスしてトップに躍り出た 3 号車が後続を引き離しにかけ、2 度の FCY と 2 度の SC をもろともせず、2 位以下を大きく引き離し、チェッカー。以下、17-37-39-19-24-8-14-100-36-64-23-16-(以上 完走)-38-12 となります。

富士に次いで、ここ鈴鹿でも予選でポールを取ることが出来、チーム力は確実に向上しております、決勝では課題の残るものの、チーム力、タイヤ開発は順調に向上しています。表彰台獲得、優勝まで近づいてると自負しています。

まだまだタイヤ開発テストがありますので横浜ゴムと共に勝つ為に頑張ります。

次戦の富士では、さらなる高みを目指し、爆走していきます。

皆様の応援、誠にありがとうございました。



## 決勝コメント

【坂東監督】



『まずはすいません。優勝出来ませんでした。しかし今季ベストリザルトです。3 号車は速かったです。足りないものを補い、優勝するまで努力していきます。レースペースも決して悪くはありませんでした。ドライバー、メカニックも頑張りました。まだまだ強いチームにならないといけません。今のチームの雰囲気は最高なのでチーム一丸となって残り 5 戦全力で戦います。沢山の応援ありがとうございました。』



### 【国本選手】



『決勝は 5 位でした。

ポールから順位を落としてしまいましたが、レース中はコンスタントに走ることが出来ました。

鈴鹿は毎年レースペースに苦しんでいましたので、コンスタントに走れたことは 19 号車の進化を感じました。

チーム皆さんの頑張りが少しずつですが結果に表れていて嬉しく思っています。

ただ自分のスタートでのポジションダウンは改善しなければいけない所だと思いますので、もっと力強く走れるように次戦に向けて準備していきます。応援ありがとうございました。』

### 【阪口選手】



『決勝は 5 位となりました。鈴鹿は厳しいレースになることが予想されましたが、安定したラップで周回し 5 位でゴールすることができました。

開幕戦から比べても非常にペースの面で改善できましたし、これからの進化がとても楽しみな一戦になりました。細かいところでさらに上積みできた感触はあるのでそういったところも突き詰められるよう次戦以降戦いたいと思います。』